

## 電子図書館サービスの取組み

## 神奈川県 綾瀬市立図書館

## 基本データ

所在地	神奈川県綾瀬市深谷中 1-3-1
職員数	34 人
うち司書数	19 人
蔵書数	約 260,000 冊
利用登録者数	約 20,000 人
年間貸出冊数	約 440,000 冊 (児童用図書貸出数 約 170,000 冊)

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】最新技術の導入、情報機器等の活用

【活動のねらい】

(1) アウトリーチプロジェクトの一環としての取組・ねらい

- 図書館の立地や利用状況、利用者アンケート結果をもとに、図書館外へのサービス展開の一環として電子図書館を導入。
- 24 時間利用可能、貸出や返却のために来館する必要はなく、時間や移動手段の制約がない、利用者のスマホやタブレット、PC で気軽に本が借りられるなど、利便性の向上
- 通常の利用が少ない年齢層である 10~20 代のスマホやタブレット端末等に親和性の高いデジタル世代への利用促進。
- 蔵書(紙の本)収容が上限に達している中での蔵書スペース(建物設備等)の利用拡大施策

(2) 郷土資料デジタル化(電子図書館での閲覧)

- デジタル化利用許諾取得等の課題をクリアしながら段階的に推進。

## 取組・活動の概要

- 電子図書館サービス(電子書籍の貸出し)を平成 30 年 4 月開始した。電子書籍の貸出しは 24 時間可能。県内公共図書館として 2 番目の導入。
- 株式会社メディアドウが提供する電子図書館サービスプラットフォーム「Over Drive」を導入。Over Drive は北米の 90%以上の公共図書館で導入実績がある。
- 令和元年 12 月時点で、電子書籍コンテンツ 1.3 万点超。2022 年度末 2 万点目標としている。
- 平成 30 年度の利用者登録は 1,058 名。



## 取組・活動の工夫や特徴

- サービス開始に当たってのメディアへの発信(記者会見等)。
- 市広報、図書館報等での PR、電子図書館体験等のイベント開催。

## 取組・活動の成果や今後の展望

【電子書籍・電子図書館の実態】

- 「電子図書館・電子書籍貸出しサービス調査報告 2019」【植村八潮・野口武悟・一般社団法人電子出版制作・流通協議会(電流協)編/著電流協発行】によると、全国の電子書籍貸出しサービスを行う図書館は 89 館(86 自治体)、総自治体数 1,788 と比較すると 5%に留まる。
- 導入が進まない背景として、下記が指摘されている。
  - ① 電子書籍市場は伸長しているが、紙の本に比べ市場規模が小さく供給量が少ない(約 80%はコミック)。
  - ② 新刊コンテンツが供給されにくい。

③ニーズの高い文芸書においては、電子書籍を許諾していない作家数は100をはるかに超えている。

#### 【成果・課題等】

- 綾瀬市は鉄道の駅がなくアクセス上の課題があり、電子図書館が根付く環境にあると考えられる。当サービス開始1年半を経過、この間利用登録者の約4割が市外在住者であった。
- 神奈川県内の導入館は大和市と綾瀬市しかなく、当初新聞他メディア露出も多かったため、比較的電子図書館に関心が高い層を中心に注目度は形成されたものと認識している。
- 今般の取組みによって、一定の利用者動向を把握することができた。国内に有用な導入比較事例も少ない中、現段階での評価は難しいところではあるが、コンテンツ供給の増加と利用側も急速にデジタル化する社会の中で、電子書籍・電子図書館の需要は徐々に増加すると考えている。
- 令和元年12月現在、当館では、令和元年度の利用者アンケートを実施中で、その結果（利用者の評価）を踏まえ、需要動向・費用対効果を勘案しつつ、中長期視点での地道な啓蒙活動及びノウハウの蓄積が重要と思われる。
- またターゲットを絞った利用促進策も検討の余地があり、デジタルに抵抗がないYA層やビジネスパーソン、及び市内在住外国人を中心に普及を進めることも有効な施策かと考えられる。

